



みみらんど通信

発行 福島県立聴覚支援学校 会津校 令和5年12月22日 令和5年度 第2号



みみちゃん教室の取り組み



2023年も残りわずかとなりました。みなさん今年は、どのような1年間でしたか？

みみちゃん教室には、2学期までに11組の親子のみなさんに利用していただきました。0歳から就学前までのお子さんと保護者さんが、楽しく遊びながら、発音や聴力測定の練習をしたり、補聴器の扱い方、聞こえの実際について確認したりしました。親子のコミュニケーションの機会を増やし、言葉の発達を促すために、季節の遊びや制作活動、お誕生会なども行っています。12月には、サンタクロースが登場しました！

みみちゃん教室にお友だちが来ると、いつも、幼稚部、小学部の子どもたちが元気にあいさつをしてくれます。中には、「補聴器ですか？人工内耳ですか？」と使っている補聴機器に関心を持って、質問する児童もいました。そして、「ぼくは補聴器です。」「私は人工内耳です。」など、自分達が使っている機器を見せてくれました。みみちゃん教室を利用している保護者の皆さんには、幼稚部や小学部の子どもたちの様子を見て、聞こえにくい子ども達の育つ姿を見て、安心したことと思います。



聴覚障がい理解 出前授業

補聴器をつける理由について

居住地校交流を行っている2つの小学校で、聴覚障がい理解のための出前授業を行いました。担任の先生と協力して児童自身が、補聴器のことや聞こえにくい状況について説明したり、居住地校のお友達に難聴の疑似体験をしてもらったりしました。自分の聞こえやわかりやすい伝え方を知ってもらおうと、意欲的に取り組むとともに、児童にとって、自分自身の聞こえの状態を意識する自己理解の機会にもなりました。

手話での自己紹介やあいさつの仕方を伝えた学級では、出前授業終了後に、手話を交えて「一緒に遊ぼう。」と誘ってもらえたり、誰が話しているのかわかるように、一人ずつ順番に話してもらえるようになったりし、交流のときのお友達とのかかわりが広がりました。

今後も、児童の自己理解を促し、自分のことを自分で伝えられるような支援、指導を行っていきたいと思います。



手話を交えての自己紹介



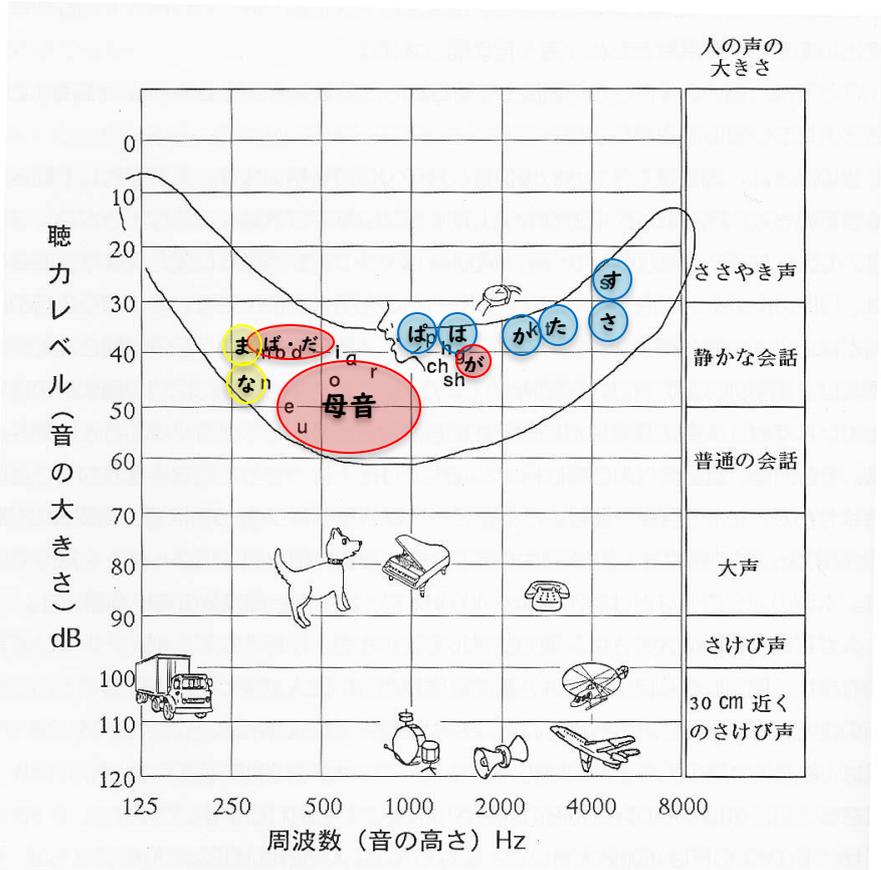
スピーチバナナの活用方法



言語発達に必要なとされる聴力の範囲を曲線で囲んだものを、バナナの形に似ていることから「スピーチバナナ」と言います。医療機関で聴力検査の結果をもらったときに、補聴器をしたときの聴力(▲の印)がこのスピーチバナナの曲線の範囲におさまっていれば、その音が聞こえるということです。もし曲線よりも下に▲の印が付いている場合は、言語発達に必要な音が聞こえていないということです。指文字で表したり、発音誘導サインを用いたりして、聞こえにくさを補うかわりが大切です。

聴力検査の結果とスピーチバナナを比べて、お子さんの聞こえの状態を把握するとともに、お子さんと一緒に、聞こえにくい音があることを確かめることで、補聴器をつける必要性について、理解を促すことにもなります。

今まで聞き取っていた言葉を聞き返すことが繰り返されたり、テレビの音を大きくすることが続いたりした場合は、中耳炎などの耳の病気になっていたり、聴力が低下していたりすることが考えられますので、すぐにかかりつけの耳鼻科の先生に診てもらいましょう。耳の健康を保ち、良くフィッティングされた補聴器を日常的に装用できるようになることが、子どもたちの言葉と心を育てる素地になります。



〈スピーチバナナの例〉



教材・教具や聴覚障がいに関する書籍などの紹介・貸出も行っています。

〔図書室の本棚より〕

やさしいことばで、子ども達の疑問に答えてくれます。親子で読むのにぴったりの本です。

